

No.	13-1-4	場所	大鹿村大河原	次世代への継承キーワード
名称	洪水で広がった小渋川の川幅と積もった土砂			災害現象理解
災害現象	洪水氾濫・土砂流出			河川 小渋川本川
補足事項				支流

概要	<p>小渋川流域は谷が深く、多量の降雨によってたちまち増水し、急斜面を流れて土砂を押し出した。連日の降雨によって大量の水を含んだ斜面が不安定化し地すべり・山抜けの状態を引き起こし、土石流となって小渋川の流域に大きな災害をもたらした。</p> <p>●体験談：災害当時 大鹿村大河原中学校教員</p> <p>二十七日、△△君は元気で登校して、明るく、クラスの中のグループの長として、当番のやり方や、男女の協力などについて意見をまとめていました。雨がはげしくなって、近くの小渋川の水量もだんだん増して来て、クラスの生徒の落ちつきも少しずつ乏しくなり、しきりに窓の外をながめては、不安顔を見せるようになってきました。が、そんな時、和則君はただひとり、まじめくさった顔で、</p> <p>「もう意見はありませんか。」</p> <p>と、グループの意見をまとめることに苦慮していました。</p> <p>その日は午前中で授業を終えて、遠くの者から集団で帰宅することになり、和則君は家が近いので午後まで居残っていたのですが、三時前には、全員自宅へ戻り、それから雨は増々はげしさを増し、ついに二十九日の午前九時二十分、一大音響とともに大西山の岩肌が生木をつけたままくずれおち、折からの増水に激流となった小渋川の水を一きにせきとめ、土砂と濁流とが瞬時にして三十数戸の人家、四十有余の人命をうばい去り、和則君一家は不在中のおとうさんを残したのみで、激流に吞まれ、おかあさんは奇蹟的に助かったのですが、弟妹もろとも行くえ不明になってしまったのです。</p> <p>△△君のクラスでは、もうひとり、やはり、元気で明るい〇〇さんというお友だちが、これはおかあさんとともに亡くなっています。</p> <p style="text-align: right;">（「濁流の子」より）</p>
----	--

記録	
----	--



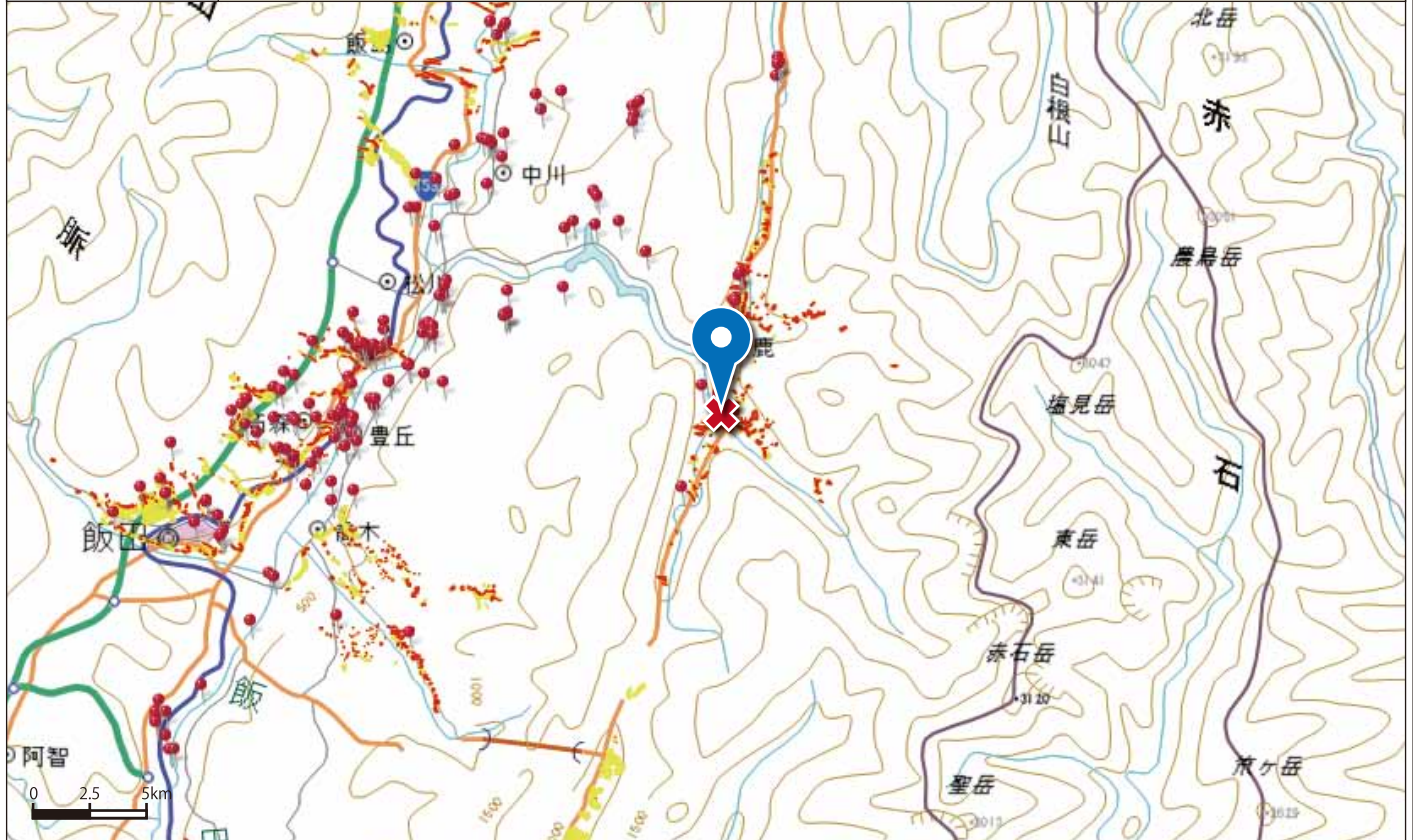
洪水で川幅が広がった小渋川とそこに積もった土砂

出典	「濁流の子」p.111
備考	

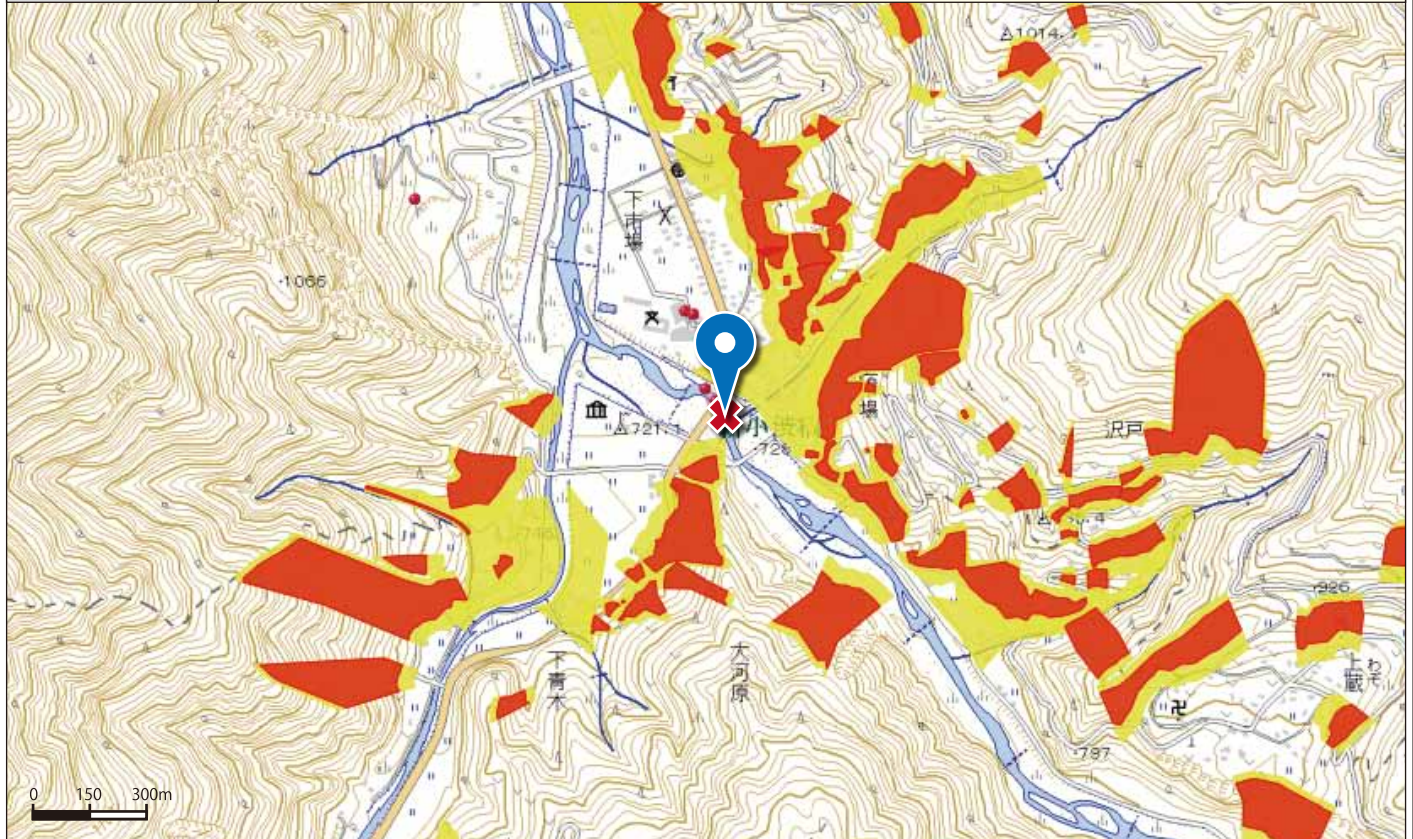
No.	13-1-4	場所	大鹿村大河原	緯度	35.556634
-----	--------	----	--------	----	-----------

名称	洪水で広がった小渋川の川幅と積もった土砂			経度	138.040617
----	----------------------	--	--	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。